



Newsletter

No.81

2019年7月10日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

## 希望と勇気のレイバー映画祭 2019 に集まろう！

—メインは『アリ地獄天国』の初上映—



2007年にスタートした「レイバー映画祭」もことしで13回目となった。近年はレイバーネットの仲間がつくる作品が増えていて、世界と日本のアクチュアルなテーマに挑んだ「映画祭」になっている。今年のメインは土屋トカチ監督の『アリ地獄天国』だ。トカチ氏はセメント輸送運転手の過酷な長時間労働の実態を描いた『フツの仕事をしたい』を2008年に発表

し、大反響を巻き起こしたが、今回の『アリ地獄天国』もそれを引き継ぐ重要な労働問題ドキュメンタリーである。その初上映が8月3日のレイバー映画祭2019で行われることになった。慰安婦問題の『主戦場』、メディア問題の『新聞記者』など安倍政権の深部に迫る優れた作品が日本でも生まれているが、『アリ地獄天国』もそうした流れの中に位置づけられるだろう。ほかに日本初公開の『ストライキ前夜』をはじめ、「フランス黄色いベスト」、沖縄、外国人、労働争議などマスコミが伝えない貴重な映像作品が目白押し。「希望と勇気」のレイバー映画祭から何かが始まる。会員のみなさん、お見逃しなく。

### ●レイバー映画祭 2019

8月3日(土) 10.00～16.50 (開場 9.30)

東京・田町交通ビル 6階ホール  
(JR 田町駅「芝浦口」徒歩3分)

参加費 一般当日 1700円 前売・予約 1500円  
失業者・障害者 (一律) 1000円  
学生・20歳以下 無料

主催・問合せ・予約 レイバーネット日本  
TEL03-3530-8588 FAX03-3530-8578

ネット予約 <http://labornetjp.jimdo.com>

\*映画祭を応援してください。基金カンパを歓迎します。またチラシ配布の協力者も求めています。

<プログラム>

9.30 開場

10.00 「ストライキ前夜」(韓国・106分)

11.50 休憩 40分

12.35 「外国人収容所の闇〜クルドの人々は今」(40分)

13.20 「植民地支配に抗って〜3.1朝鮮独立運動」(25分)

13.50 ショートプログラム〜世界から日本から(60分)

「ユニクロ払え!〜インドネシア縫製労働者」

「フランス・黄色いベスト運動」

「沖縄・宮古島ではいま」

「自販機ユニオンのストライキ」

「ユナイテッド乗務員のたたかい」

「連帯が来なければよかったのに・・・」

14.50 休憩 10分

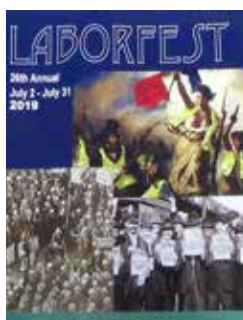
15.00 「アリ地獄天国」(98分)

16.50 終了

終了後、ビル裏の公園にて二次会

- ・各作品上映後に制作者・関係者のミニトークあり。
- ・会場内でのフード販売はありません。
- ・プログラムは変更することがあります。HPでご確認ください。

### ●アメリカでは「レイバーフェスト」開催



アメリカの「レイバーフェスト」はことしで26回目、7月2日から31日までの約1か月間、サンフランシスコで毎日日替わり上映で開催される。7月12日には「フクシマ、オリンピックと労働」、30日には「メトロレディーブルース」も上映される。

### <レイバーネット 2019年の活動案内>

- レイバーネット TV  
142号放送:7月17日(水)  
「参院選をどうみるか」  
場所=スペースたんぼぼ (19.30～20.45)  
視聴サイト=<http://www.labornetjp.org/tv>
- レイバー映画祭 2019  
8月3日(土) 10時～16時50分

- 田町交通ビル 6F ホール
- 夏季ビアパーティ  
8月21日(水) 場所未定
- 合宿  
10月5日(土)～6日(日)  
SCAT セミナールーム「毛呂分室」
- レイバーフェスタ 2019  
12月21日(土) 田町交通ビル 6F ホール  
\*詳細は順次ホームページに掲載します。

## 上映作品紹介

●『アリ地獄天国』 監督：土屋トカチ 2019年 /98分 ★初公開

これは来る日も来る日も粉塵の舞うシュレッダーの仕事をしいられた青年のたたかひの記録である。それが懲罰として2年もつづき、青年は3年間たたかひ。かれの孤独な姿を、道をへだててビルの窓のブラインドの隙き間から撮ったのが土屋トカチ監督で、そのドキュメンタリー『アリ地獄天国』がついに日の目を見ることになった。

映画は、青年が会社側の非道な扱いに抗議して、職場の隅に追いやられながらも、自らの意志を貫きとおし、人間としての尊厳をかちとるまでを描いている。会社は全国的展開をしている「アリさんマークの引越社」で、従業員は約4千人もいるが、組合はなく低賃金で深夜まで働かされている。そこで青年は一人でも入れるプレカリアートユニオンに加入する。委員長は小柄な女性なのに堂々としていて、喚きたてる会社幹部に「静かにしなさい。話をききなさい」といさめる。その凜とした声がいい。

監督の土屋にはかつて過労自殺の友人を救えなかった負い目があった。かれはそれを胸に秘めて二人三脚のようにして青年を撮りつづけ、この傑作を生み出した。今どきの若者らしい本音が出てくるシーンも新鮮だ。(木下昌明)

●『ストライキ前夜』 韓国チャンサンゴンメ 1990年 /106分 ★初公開



なぜ韓国の労働運動は強いのか？ その答えがこれだ。劣悪な生活を強いられた工場労働者が労組を結成し、弾圧される内容を描いたこ

の映画は、プロダクションではなく自主映画団体「チャンサンゴンメ」が制作した。『ストライキ前夜』は1990年4月6日に上映が始まると全国各地で公権力との衝突が繰り返された。劇場での上映は叶わず、大学や小劇場、労働現場などで上映された。当時、観客は数十万に達し、大工場のスト現場での上映では数千人が鑑賞した。80年代韓国民主化運動における映画の役割を遺憾なく示したこの映画は「伝説の独立映画」と呼ばれてきた。韓国では30年の時をへて、今年2019年5月1日メーデーの日に劇場公開され話題になった。

●『外国人収容所の闇〜クルドの人々は今』 制作：山村淳平 2019年 /40分 ★初公



トルコで迫害をうける少数民族クルド人。彼らは日本に逃れてきているが、難民として認められていない。そして待ちかまえるのは、入管庁が管轄する外国人収容所である。

外国人収容所は、在留資格のない移民・難民を収容

する施設である。そこでは、入管職員による暴力があり、病人は放置され、被収容者は自殺へと追い込まれる。なんら罪を犯していないにもかかわらず、収容が数年以上もつづくため、精神の拷問といわれている。本作では、日本に住むクルド人への取材を通して、外国人収容所の知られざる実態を映しだし、その闇にせまる。

●『植民地支配に抗（あらが）って〜3.1朝鮮独立運動』 制作：尾澤邦子 2019年 /25分 ★新作

今年日本の植民地支配下で起きた「3.1朝鮮独立運動」からちょうど100年。1919年、朝鮮独立万歳を叫ぶ示威運動は全国各地に波及したが、日本の軍・警察は武力でこれを鎮圧し約7500人の犠牲が出た。日本統治下の朝鮮半島で起きた最大規模の反日独立運動だった。いま徴用工、慰安婦問題で揺れる日韓関係だが、その背景には清算されない過去の歴史があった。日韓問題を考える貴重な作品。

●ショートプログラム〜世界から日本から 60分 ★初公開

『ユニクロ払え！〜インドネシア縫製労働者のたたかひ』（前田健司 12分）

『フランス・黄色いベスト運動』（根岸恵子 10分）

『沖縄・宮古島ではいま〜自衛隊がやってきた』（見雪恵美 10分）

『自販機ユニオンのストライキ〜8時間で暮らせる賃金を！』（総合サポートユニオン 10分）

『ユナイテッド乗務員のたたかひ〜首切り自由は許さない』（松原明 10分）

『関西生コン弾圧事件・最新映像』（全日建連帯ユニオン 5分）



●11AM 劇場 名画発見！

〜レイバー映画祭作品が劇場で上映



7月13日〜19日、東京渋谷のアップリンクで「11AM 劇場 名画発見！」と名付けたシリーズ上映が行われる。映画作家・山谷

哲夫さんのプロデュース企画である。このシリーズに「レイバー映画祭」の過去上映作品が多数選ばれている。『天皇の名のもとに〜南京大虐殺の真実』『原発の町を追われて〜避難民 双葉町の記録』『オキュパイ・シャンティ〜インドカレー店物語』『死んだらヒマはないー益永スミコ 86歳』などだ。山谷さんからは「せっかく広げる機会をつくった。満席にせよ」との叱咤も受けている。どれも素晴らしい作品です。ぜひ応援してほしい。

## 各プロジェクト報告

### ●川柳班:「反戦川柳句集」出版記念シンポジウム大成功



5月19日「崖っぶちの時代と川柳」と題した出版記念シンポジウムが「スペースたんぼぼ」で開かれた。約40人が集まり会場はいっぱいだった。ゲストの4人(宇部功、高鶴礼子、寺内徹乗、榎沢健)の話はどれも熱かった。聴衆からもこれに呼応するように自由な発言が続いた。「鶴彬(つるあきら)を初めて知った」「川柳の可能性を感じた。自分もやってみたい」等々。鶴彬の仕事を継承する「反戦川柳」という新しい川柳ジャンルが可視化された集いになった。『東京新聞』記者も参加し、6月4日号で「川柳の社会的意義」のタイトルでシンポジウムの記事を発表している。その影響もあり、句集の注文が相次いだ。句集を購入した千葉市のOさんからは「長いこと川柳活動をしてきましたが、やっと本音を詠める句会に出会えた心地です」との感想が寄せられ、さっそく投句もしてくれた。レイバーネット川柳班の活動が少しずつ広がっている。なおシンポジウムの報告パンフレットを制作中だ。

### ●レイバーシネクラブ:アニメ『動物農場』をめぐるディスカッション



レイバーシネクラブは毎月一回の例会をつづけている。6月8日はカフェラバンディアで開催し、初めてのメンバーや外国人も参加した。とりあげたのは1945年に刊行されたジョージ・オーウェルの小説をもとにしたアニメ『動物農場』だった。この企画は木下昌明さんの提案で「社会主義の問題やいまの安倍政権の問題を考える糸口になるのでは」という趣旨だった。以下は上映後にシネクラブMLに寄せられた感想である。なお次回は7月27日(土)18時からでいま超話題の『新聞記者』をテーマにディスカッションする。場所は郵政共同センターの予定。  
★映画の感想ですが、全体主義社会の作り方マニユ

アルと捉えると面白いかなと思いました。町内会や教室で起きてても不思議ではない身近なこともかもしれません。原作とは違うところも多いアニメ映画ですが、それでもジョージ・オーウェルの思想を感じることができました。やはり凄い人です。(O)

★はじめはどの動物も四本足だったが、動物蜂起のあと、豚だけが立ち上がり、人間と同じ二足歩行していた。他の動物は労働という人間と同じ義務を負いながらも、四本足のままだった。二本足で歩くブタは、もはやブタ本来の姿ではない。権力を手にした二足歩行ブタは、前足を手のように使い始め、他の動物、例えば馬やロバは、ずっと四本足のありのままの姿のまま労働して、ケガしてしまった。それでも馬は馬自身が持つ力で生き延びたのに、人間と二足歩行ブタが、自分たちの利益のために殺してしまった。(四本足は正しい。二本足は悪い)という動物農場のローガンには、立ち上がり二足歩行に進化しようとする(人間になろうとする)ブタと、四本足のまま、あるがままに生きる動物たちとの対比が表されていると思う。(K)

★私は映画の描き方がカリカチュアしすぎていて、いまいちでした。たまたま昨夜NHKスペシャル「天安門事件 運命を決めた50日」をみていたら、『動物農場』の世界がよみがえってきました。そのNHK番組によれば当時のトップの鄧小平氏は「200人の死が中国の20年の安定をもたらす」と公言していたそうです。そして兵士たちに「どんな手段をとっても広場をとりかえせ」と命じるのですが、けして「発砲しろ」とは言わなかったそうです。しかし兵士は付度して「発砲しろ」と受け止めます。番組のインタビューで元兵士は「いまでも民衆に発砲したことに苦しんでいる。権力者は責任をとらない」と苦痛の表情で語っていました。天安門事件の犠牲者は1万人以上とも言われていますが、いまだに調査も謝罪もなく。中国政府は弾圧は正しかったとしています。『動物農場』が描いた問題の深さを感じます。

### ●レイバーブッククラブ: 新自由主義下で変容する労働現場



6月1日のブッククラブは『アマゾンの倉庫で絶望し、ウーバーの車で発狂した一潜入・最低賃金労働の現場』を取り上げた。新自由主義下で変容する労働現場、極限までのコンピュータ管理による合理化。果たして希望はあるのか? 鎌田慧の『自動車絶望工場』を彷彿される作品で、ディスカッションは大いに盛り上がった。次回は7月6日で『呪いの言葉の解きかた』を取り上げる。

## 7月参議院選挙：レイバーネット会員の候補者が出馬

7月21日に行われる参議院選挙。安倍暴走に待たをかけるギリギリのチャンスである。今回はレイバーネット会員の候補者が二人出ているので、紹介しておきたい。

●大椿ゆうこさん、経団連前で怒りの東京初街宣  
大阪教育合同労組委員長の大椿ゆうこさんが、参議院選挙全国比例区に社民党候補として立候補



することになった。6月26日昼、東京での初の街宣は経団連前で行われた。真っ赤なTシャツに「No Union No Rights」(ユニオンなくして権利なし)の文字が鮮やかだ。マイクを

握った。「私が国政に挑戦しようと思ったのは、もう安倍政権と経団連に労働者が舐められまくるのを見るのは、嫌だと思ったからです!」。大椿さんの歯切れがいい演説がはじまった。「最近、大企業の社長たちが『終身雇用はもう守れない』と言い始めた。トヨタの役員は3億円以上の報酬をもらっている。その金は働く労働者がいて非正規で安く使って搾取しているからできた金。自分たちはしつ

かりもらっている。それで『終身雇用はしない、いつクビを切るかわからない』と堂々と言い出した。ふざけるな!といたい。雇用に責任もてよ! 450兆円の内部留保をためこんでいる。クビにするという話をする前に内部留保を吐き出すのがあたりまえだ。吐き出せ!吐き出せ!内部留保」。ド迫力の怒りの演説が経団連ビルに響き渡った。

●おしどりマコさん、立憲から「脱原発」掲げて出馬

芸人ジャーナリストのおしどりマコさんは2018年11月のレイバーネットTV：オンボロ原発を動かすな! ~首都圏「東海第二原発」に出演して、こう訴えた。



「福島原発事故の検証がされていらないのにどんどん再稼働がすすめられている。こういう国策を許してはならない。私は2019年夏の参院選に立候補するつもりだ。原発事故のあったときの政権党は民主党だったが、その反省のうえに廃炉を最終目標にする民主党議員の多くが立憲民主党に参加している。今こそ、脱原発のチャンスだと思う。脱原発の夢を正夢にしたい」と。

### ●レイバーネットTV 報告

#### どこへ行ったスポーツ精神! 金まみれ すり替え ごまかしの祭典

6月19日のレイバーネットTVはオリンピックの問題点に迫った。オリンピックは「税金を使って、遊びを大の大人が食い物にして儲けている。国威高揚に利用される」と嫌だった。今回は特に福島の「復興」という冠が加わり、一口に言って「うさんくさピック」と思っていたが、なんと3人のゲストの方の話を伺うと、はっきりと何が問題なのかが見えたきた。ゲストの鶴飼哲さんは、1980年のロス五輪が、今のように新自由主義的経済(商業主義)とオリンピックがドッキングするターニングポイントだったというが、実はその前から日本に限っても商業主義と国家主義が深く結びついて



いる。満州事変、日中戦争で日本の方から取り下げた1940年のオリンピックが、復興五輪だったとか。エッ何の? なんと関東大震災(1923年)の時に国際的支援に対する感謝の場ということだ。それと忘れてならないのが、祝皇紀2600年(オリンピックと天皇制が結びついている)という初めて聞く話も飛び出す。1964年五輪は敗戦復興、2020年はもちろん東日本大震災からのだ。今回は、震災からの2年の時点で、復興されているという予断の上に立っての決定である。本来は、被災地の復興に使うべきお金を、オリンピックのための工事に使い人々を見捨てたと厳しく批判。これは、復興のイメージを演出するためであり、本当の被害を隠ぺいする意図があったという。(笠原真弓)

### レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 570名

ウェブアクセス 1日 6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本  
銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所  
普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org  
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578